

機関紙 第 136 号

まちづくり

令和4年3月31日



発行／大野地区まちづくり推進協議会・機関紙編集委員会
〒912-0087 大野市城町9番1号 大野公民館内 ☎66-2828

大野地区 まちづくり推進協議会

会長 米村博之



コロナ禍も三年目には
 いろいろとされていますが、
 市内でも多くの感染者が
 あらわれ、それぞれの場
 所で大変な思いをしてお
 られる方が多くいらつ
 しゃいます。新年度も状
 況は変わらないと思いま
 すが、残念なことには話
 すことが制約されること
 です。

「まちづくり活動を通
 じて交流を深める」とい
 う本来の目的をほとんど
 できない状況が続くのか
 と思うと、一刻も早いコ
 ロナ克服を願うものであ
 ります。前年度は感染防
 止のため活動を制限せざ
 るを得ない状況下、三つ
 の部会がそれぞれの取り
 組みを全うしていただき
 ました。

会議や行事に参加、そし
 てご支援をいただきまし
 た方々にお礼を申し上げ
 たいと思います。

さて昨年暮れに「大野
 地区地域課題検討会」が
 立ち上がりましたが、今
 後大野市では時代を担う
 若者が少なくなる一方
 高齢者の増加が進み、こ
 れまでは相談に乗って
 くれた世話役のなり手が
 なくなるのが想定され
 ます。こうした状況下、
 どのような形で住民が助
 け合いそして連携してい
 くのかを模索し、具体化
 していくための方策を洗
 い出すことを目的に設立
 されました。

まちづくり活動も検討
 会の趣旨と一致する部分
 が多く、まちづくり協
 会もこの検討会に参画し
 ましたが、「行事を通じて
 交流を深める」だけでな
 く「助け合う人の輪づく
 り」を念頭におき、活動
 を推進していかねばなら
 ないと考えます。

そのためには皆様方の
 積極的な知恵だしとご協
 力、ご支援をよろしくお
 願います。

各地区まちづくり懇談会

第2地区では、11

第3地区では、10月

月17日に大野市政策
 推進課及び環境・水
 循環課職員を講師に
 招いて、大野市のS
 D G sの現状やゼロ
 カーボンシティの取
 組みを学びました。

活発な意見交換が
 でき、互いに理解を
 深めることができました。

31日に日吉神社宮司
 朝比奈氏を講師に招い
 て、日吉神社のいわれ
 を学びました。

参加者からは、日
 吉神社が山王さんと
 いわれる経緯や日吉
 神社に堀がある理由
 が分かり、親しみが
 湧いたとの感想が聞
 かれました。



交通事故が多発し、
 交通死亡事故多発警
 報が発令されており、
 また、年末交通安全
 県民運動が始まるの
 に合わせて、第5地
 区では、12月7日に大
 野警察署職員を講師に
 招いて、交通安全教室
 を開催しました。

参加者からは、今後
 気を付けて、安全運
 転を心がけたいとの感想
 が聞かれました。

総務部活動

11月15日に学びの里「めいりりん」において、みくに地区まちづくり協議会（坂井市三国町）とまちづくりについて意見交換会を開催しました。坂井市三国町からは29名、大野地区からは米村博之会長や各部長など6名が参加し、互いの活動を紹介したり、活動において工夫している点や課題などの意見を出し合ったりしました。参加者からは、今後の活動の参考にしたいとの声がかれました。



環境部活動



昨年に引き続き亀山東側の斜面の美化活動を行いました。大野地区の花いっぱい運動の一環として、5月23日から11月2日まで花壇で植栽するとともに、本協議会の委員同士の交流の場として行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら可能な作業を行いました。シバザクラが生育していない部分の植栽を専門家の指導の下に行い、樹木の枝切りなど維持管理を含めて実施しました。

まちづくり学習会

7月20日に中村和幸さんを招いてまちづくり学習会を開催しました。中村さんは大阪から大野へ移住したウェブコンサルタントで、「カンケイ商店」プロジェクトを展開しています。学習会には29人の市民の方が参加し、移住者目線からの大野の魅力、新しいことを始める際に意識していることなど、まちづくりに関する様々なことについて教えていただきました。やりたいことができたらどんな人に話し、最初の協力者3人を見つけること、暇な時間を作り、とにかくいろいろな物・人と触れ合うことなど、実際にまちづくりに関わっている方の生の声を聞くことができ、有意義な学習会となりました。



啓発部活動

オンライン視察研修

8月3日に大野市と災害時相互応援協定を締結している福島県相馬市とズームを利用してオンラインで視察研修を行いました。市の地域防災対策室から防災に関する取り組みをお聞きするとともに、市観光協会の語り部から体験をお聞きました。東日本大震災から10年が経過しましたが、風化させず、防災に対する日々の備えが重要であることを再認識しました。



編集後記

暦の上では、立春を迎えますが、2月はまだ冬の真っ盛り。寒い日が続きますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

昨年からの新型コロナウイルスが一向に収束せず感染防止のため、様々な会議やイベントが中止や縮小に追い込まれている中、去年の春からまちづくり啓発部に参加させて頂き色々な学習会を体験しました。

まず、フリーランスのウェブコンサルタントの中村和幸氏の「大野の7つの魅力、地域づくり、カンケイづくり」の活動内容をヒントを交えて、語っていただきました。

次は、相馬市とのリモートワークによる研修会を実施して東日本大震災における体験談を語り部から聞きました。

次に、越前美濃街道を探索して歴史の道、ゆかりの町など産業文化のつながりを知り、ますますこの地域の歴史の移り変わりや先人の功績を学び、これからの大野市の将来に向けての「みちしるべ」が見えたらいいなと思いました。

私、個人的には郡上八幡市が気に入っています。又春、コロナ禍がおさまったら是非行きたい町です。

(副会長 篠島一郎)

